

# 2013年3月期 上期 決算概要

テルモ株式会社  
上席執行役員 経営企画室長

羽田野 彰士

2012年10月30日

# 決算概要

(億円)

	12/3期上期	13/3期上期	増減率
売上高	1,907	1,918	+ 1%
粗利益	1,031 (54.1%)	1,005 (52.4%)	- 3%
一般管理費	571 (29.9%)	599 (31.2%)	+ 5%
開発費	114 ( 6.0%)	124 (6.5%)	+10%
営業利益	346 (18.2%)	282 (14.7%)	-19%
(のれん償却除く)	384 (20.2%)	320 (16.7%)	-17%
経常利益	313 (16.4%)	242 (12.6%)	-23%
純利益	177 ( 9.3%)	145 ( 7.6%)	-18%
EBITDA (営利+償却費)	488	437	-10%

期中平均レート

US\$ 80円  
EUR 114円

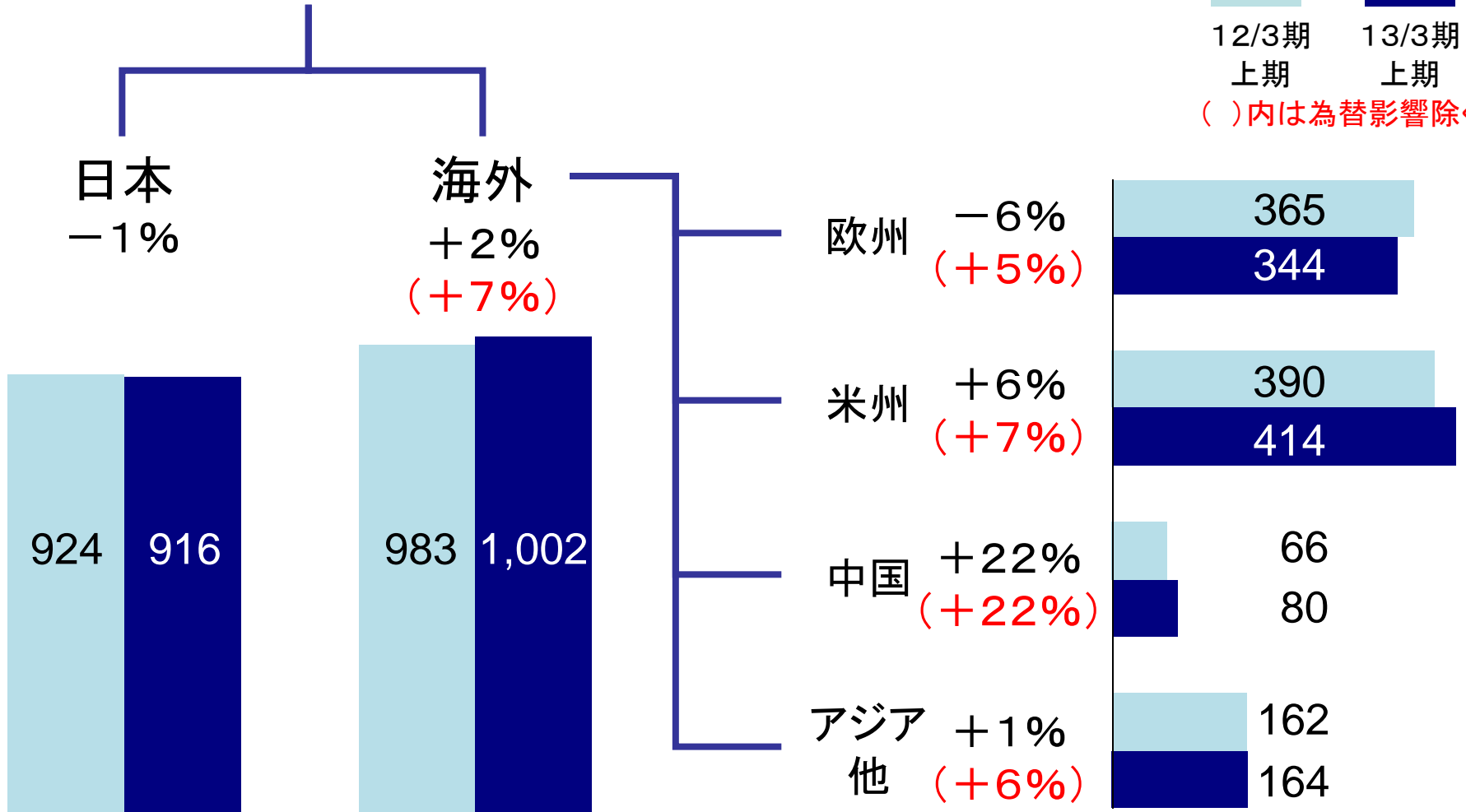
79円  
101円

# 売上高(地域別)

(億円)

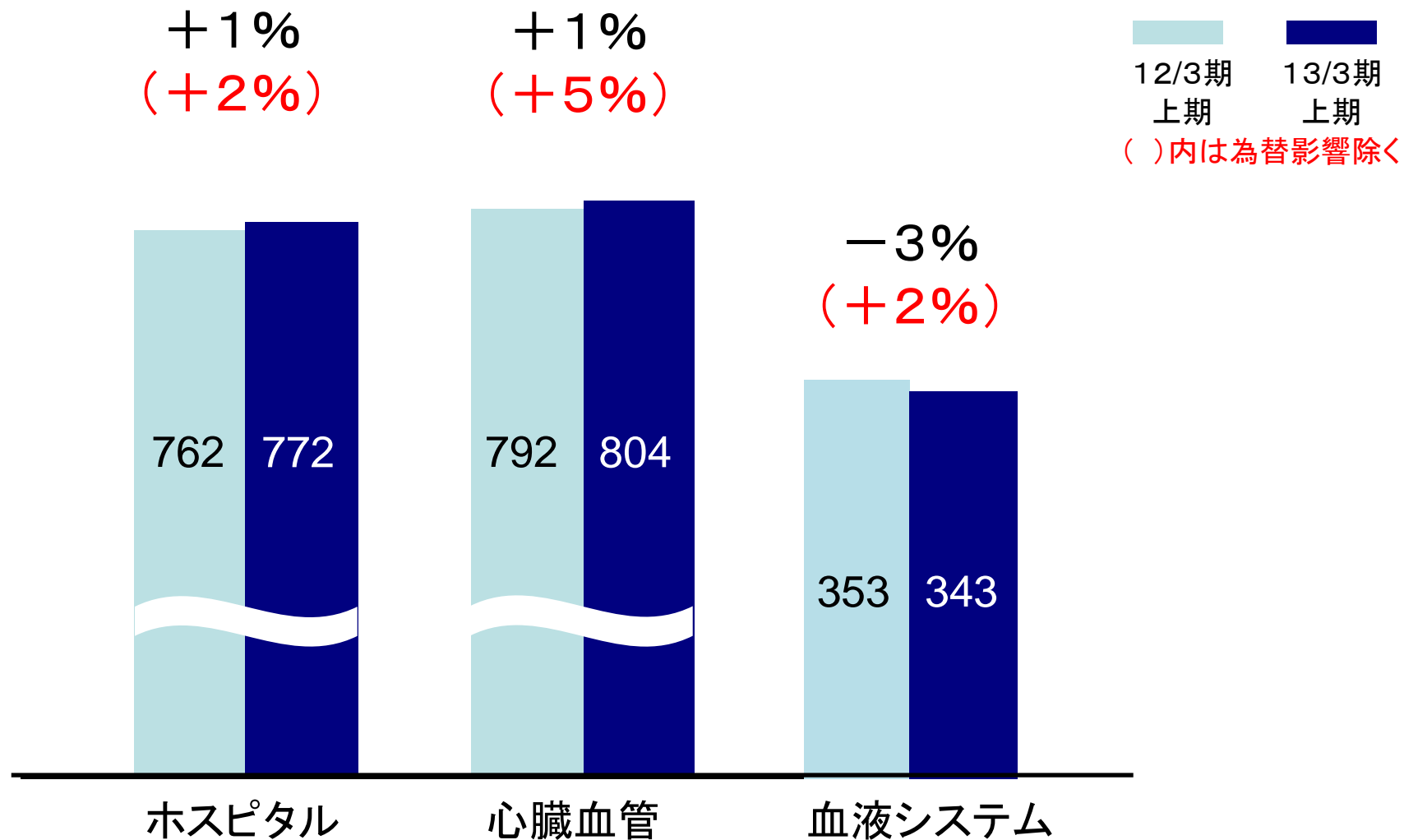
連結: +1% (+3%)

12/3期 13/3期  
上期 上期  
( )内は為替影響除く



# 売上高(事業セグメント別)

(億円)



# 上期：事業別 国内外売上高と伸長率

上期(4-9月合計)

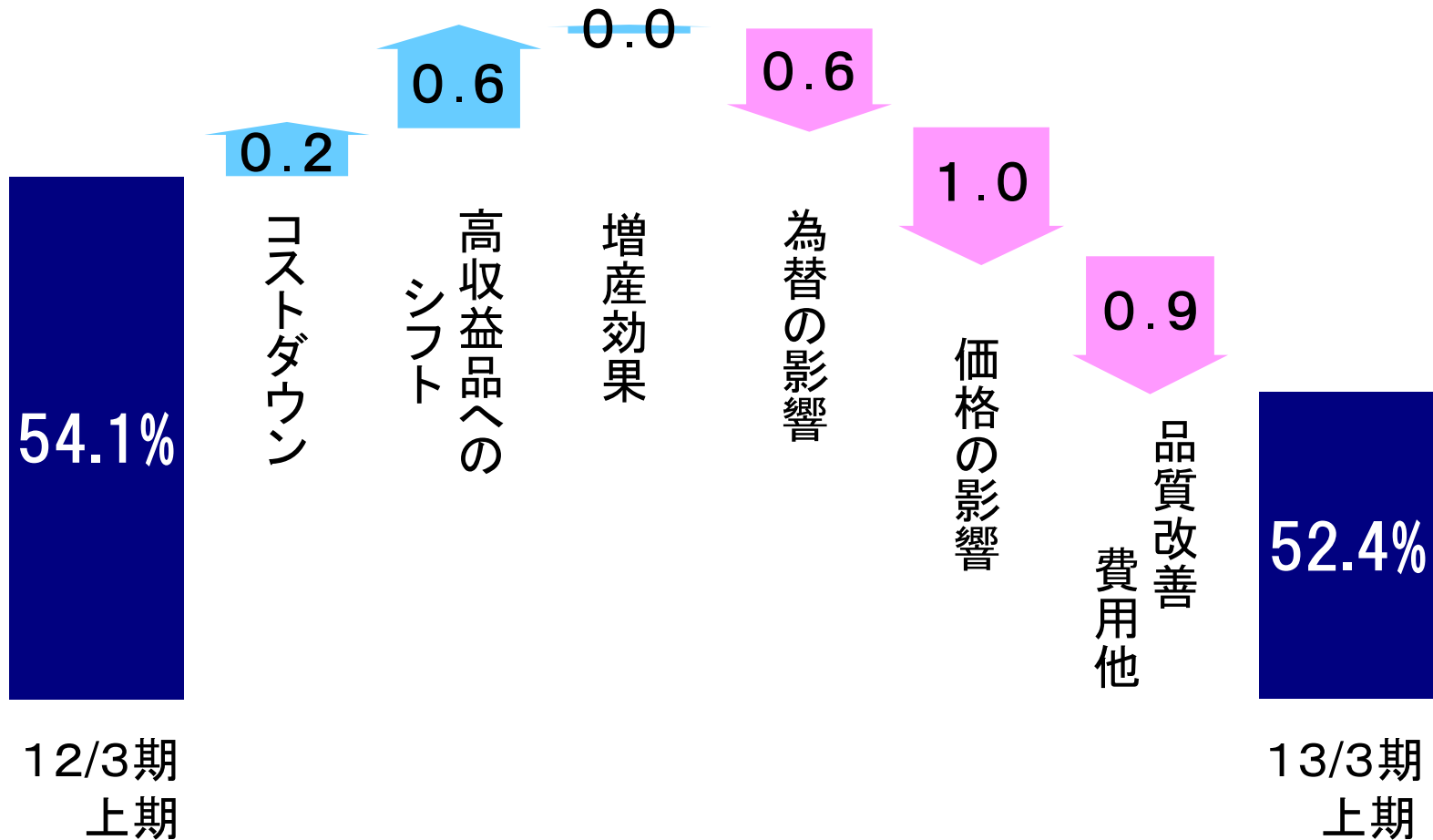
(億円)

事業 セグメント	国内	海外 計	欧州	米州	中国	アジア	合計
ホスピタル	627 ( 3%)	144 ( 1%)	48 (-0%)	35 ( 2%)	6 ( 32%)	55 (-1%)	772 ( 2%)
心臓血管	228 (-11%)	575 (12%)	207 (11%)	237 (12%)	63 (24%)	69 (10%)	804 ( 5%)
血液 システム	60 ( 6%)	283 ( 1%)	89 (-2%)	142 ( 1%)	12 (11%)	39 (10%)	343 ( 2%)
合計	916 (-1%)	1,002 ( 7%)	344 ( 5%)	414 ( 7%)	80 (22%)	164 ( 6%)	1,918 ( 3%)

下段( )内は為替影響除く対前年同期伸長率

# 粗利益率差異分析

(%)



# 販管費

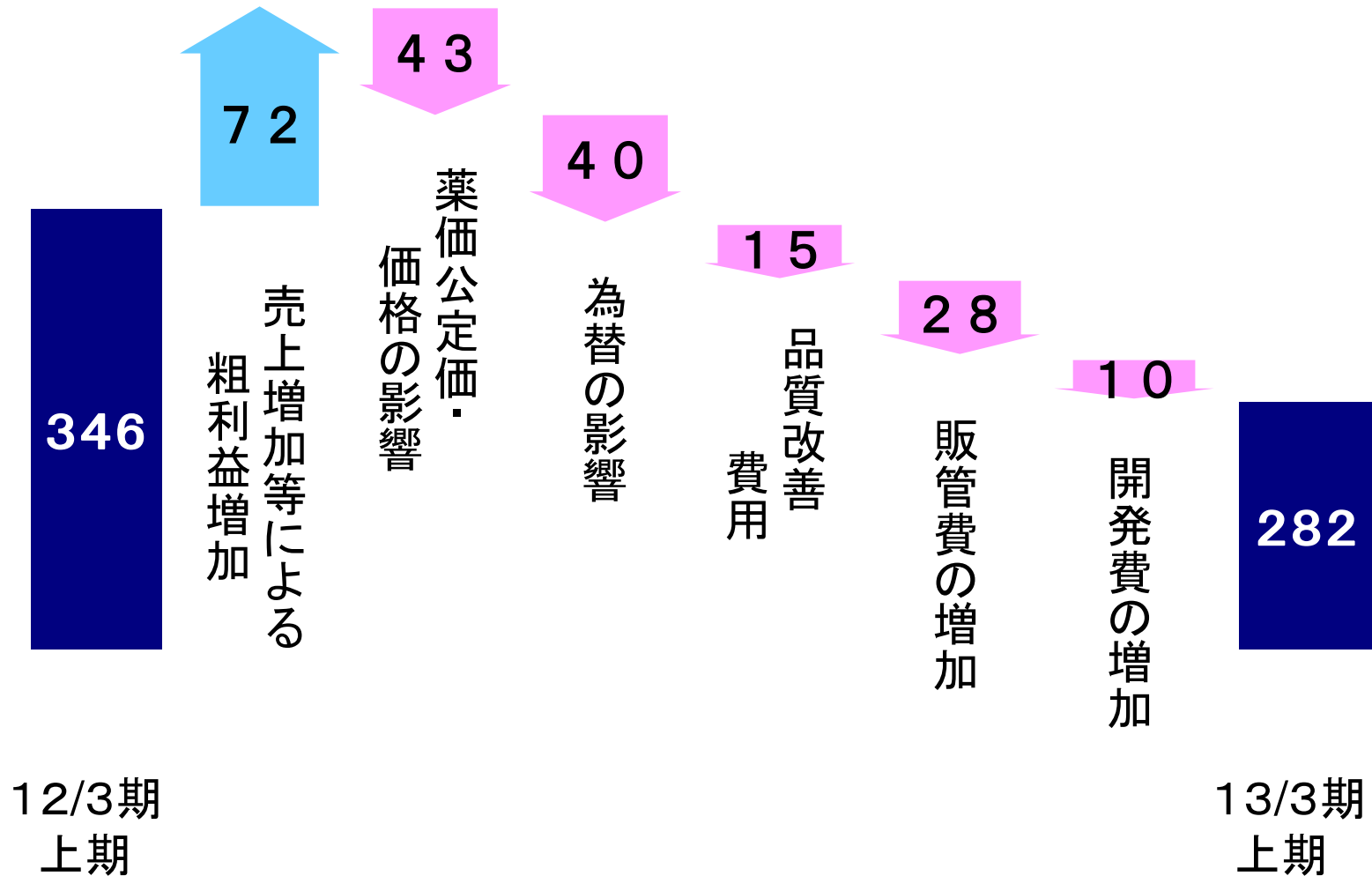
(億円)

	12/3期 上期	13/3期 上期	増減	増減率
人件費	242	254	+12	+5%
販促費	54	57	+3	+5%
物流費	51	50	-1	-1%
償却費	86	86	-0	-0%
その他	138	152	+14	+9%
一般管理費計	571 (29.9%)	599 (31.2%)	+28	+5%
研究開発費	114 (6.0%)	124 (6.5%)	+10	+10%
販管費合計	685 (35.9%)	723 (37.7%)	+38	+6%

( )内は対売上高%

# 営業利益増減分析

(億円)





# 対上期業績予想

(億円)

	上期業績予想	上期実績	増減	対予想比
売上高	1,950	1,918	-32	98%
営業利益	285 (14.6%)	282 (14.7%)	-3	99%
経常利益	275 (14.1%)	242 (12.6%)	-33	88%
純利益	160 (8.2%)	145 (7.6%)	-15	91%

## 要因

1. 国内ノボリの売上 (一)
2. 為替の影響 (一)
3. 海外カテーテル好調 (十)

期中平均レート	見通し	実績
US\$	80円	79円
EUR	105円	101円

# 四半期の動き

(億円)

	Q1実績	Q2実績	増減	増減率
売上高	959	960	+ 1	+0%
粗利益	517 (53.9%)	488 (50.9%)	-29	-6%
営業利益	155 (16.1%)	127 (13.3%)	-28	-18%

## 粗利益悪化の要因

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 為替の影響      | -10億円 |
| 2. 稼働率差(原価差異) | -11   |
| 3. 高収益品へのシフト  | - 6   |
| 4. その他        | - 2   |

期中平均レート	Q1	Q2
US\$	80円	79円
EUR	103円	98円

■ 下期粗利益率は上期水準で推移

# Q2: 海外心臓血管は好調、血液は回復傾向

第2四半期(7-9月合計)

(億円)

## ■課題は国内のホスピタルと心臓血管

事業セグメント	国内	海外計	欧州	米州	中国	アジア	合計
ホスピタル	315 (1%)	75 (4%)	24 (8%)	19 (2%)	3 (22%)	29 (0%)	390 (2%)
心臓血管	111 (-19%)	282 (14%)	97 (12%)	119 (15%)	29 (12%)	36 (18%)	393 (2%)
血液システム	34 (18%)	142 (4%)	45 (0%)	71 (2%)	7 (11%)	20 (20%)	177 (6%)
合計	461 (-3%)	499 (9%)	167 (8%)	209 (9%)	39 (12%)	85 (12%)	960 (3%)

下段( )内は為替影響除く対前年同期伸長率

# 下期の主な取り組み

## ■ ノボリの強みの再訴求によるシェア奪回

- 特定病変への強み、長期安全性・有効性

## ■ 国内ホスピタル事業の強化

- 輸液システム領域のラインアップ拡充

- 新型セーフティ容器のフルカリック(高カロリー輸液)

10月

- スマートポンプ(輸液・シリンジポンプ) 11月

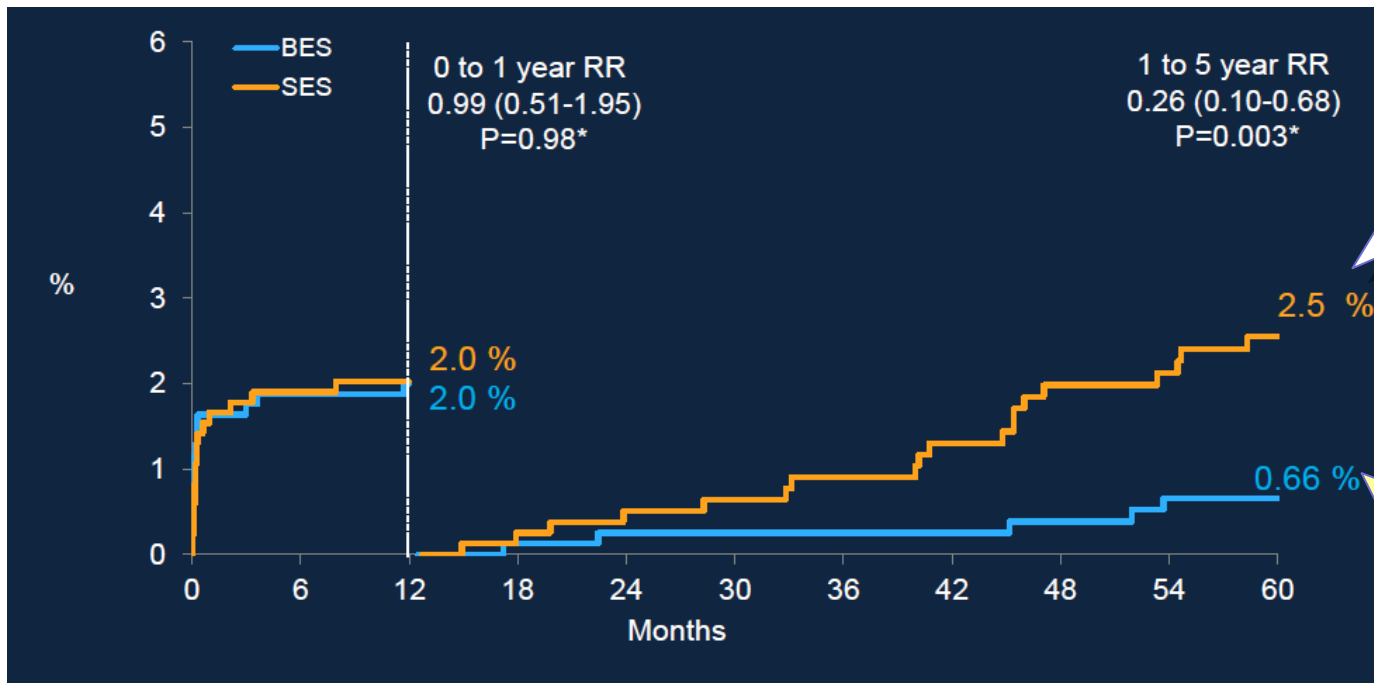
- サーフロー V3(静脈留置針) 11月

## ■ 米TCVS社のFDA対応

# TCTでノボリの長期安全性が示される

- ノボリの生分解性ポリマーを使ったDESと他のDESとの比較
- 「長期的にステント血栓症などが有意に少ない」

## LEADERS 5 years: ステント血栓症の発生率



シロリムス  
溶出ステント  
(残存性ポリマー)  
【Cypher】

バイオリムス  
溶出ステント  
(生分解性ポリマー)  
【ノボリ、Biomatrix】

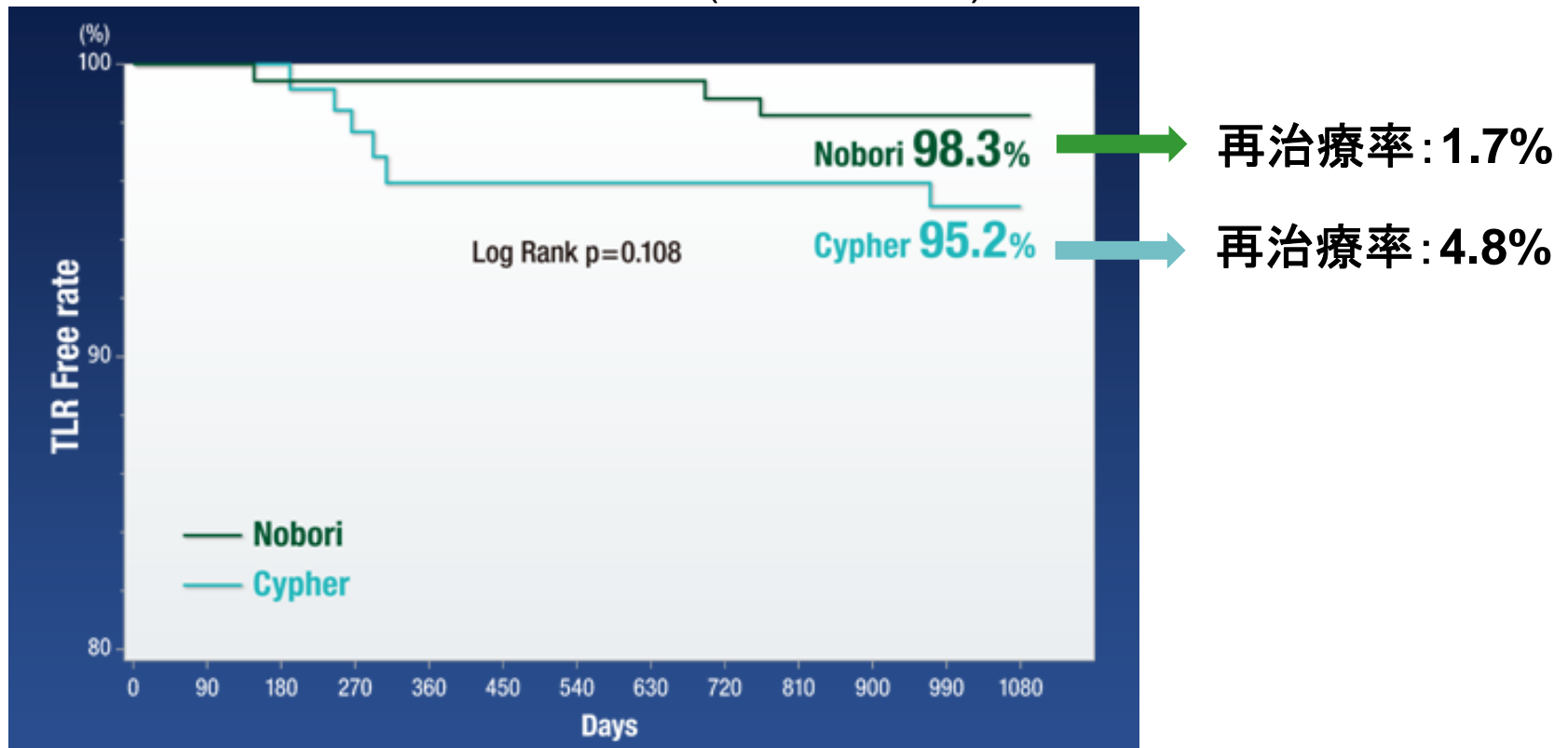
バイオリムス溶出ステント(Biomatrix) ※とシロリムス溶出ステント(Cypher)との比較  
(※) ノボリと同じ薬剤・ポリマーを使用

【出所】 TCT 2012 LEADERS 5 years, Patrick Serruys MD, PhD

# TCTでノボリの長期有効性示される(国内臨床)

- ノボリの長期再治療率は、Cypherと比べ低い
- 2年から3年にかけて、その差は広がっている

3年 再治療フリー・レート (NOBORI-J)



[出所] TCT 2012, Dr. Takeshi Kimura / Kyoto University

---

# 参考資料

# 設備投資と研究開発費

(億円)

	FY12見通し	上期実績	対前同比
設備投資*	380	151 (40%)	+28
償却費*	325	155 (48%)	+13
研究開発費	270	124 (46%)	+10

\* 無形資産含む  
設備投資は取得ベース

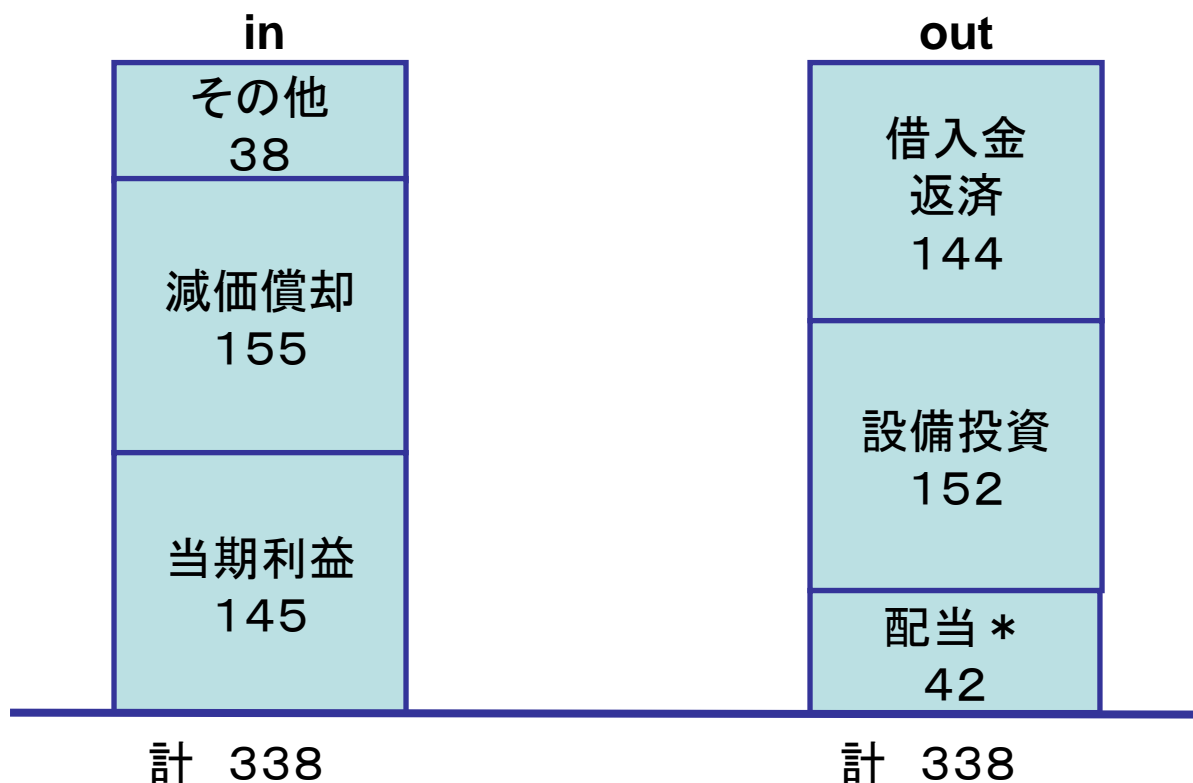
%: 対年間見通し割合



# 上期キャッシュフロー

(億円)

- 成長投資・借入金返済・株主還元を  
バランスよく実施



\* 中長期的に当期利益の30%を目標

# 為替感応度

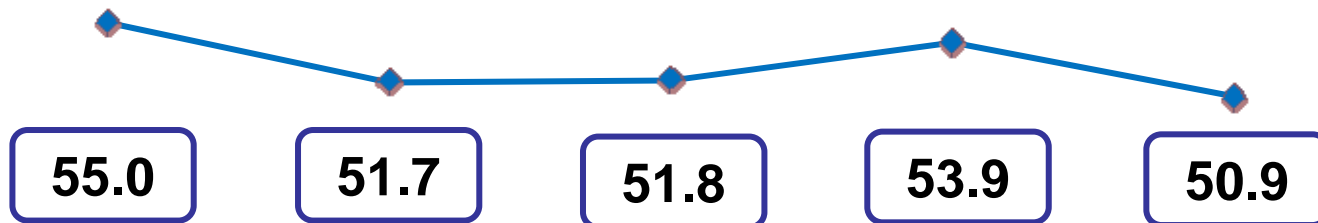
(億円)

	ドル	ユーロ
売上高	17	7
営業利益	3	4

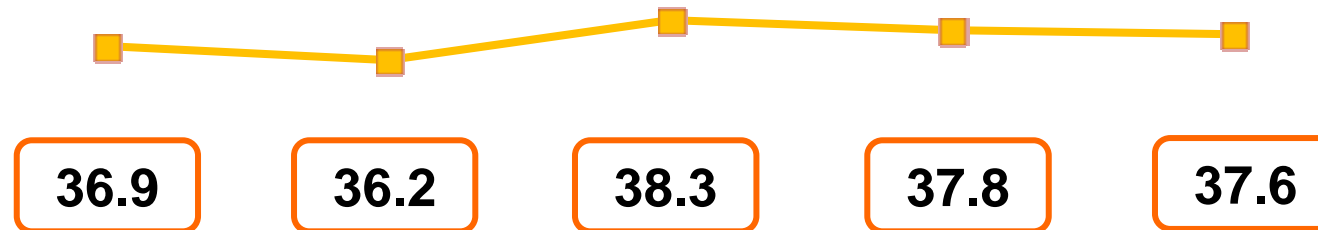
# 粗利益率、販管費率、営業利益率

(%)

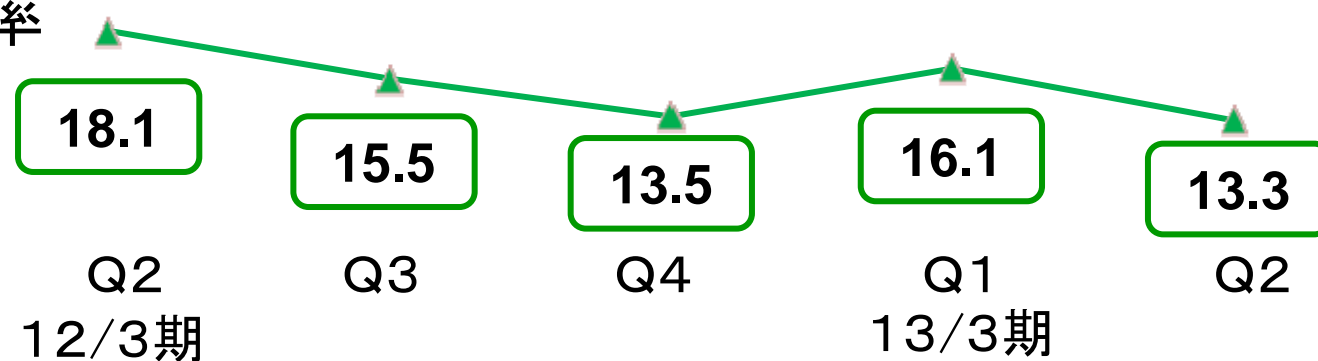
粗利益率



販管費率



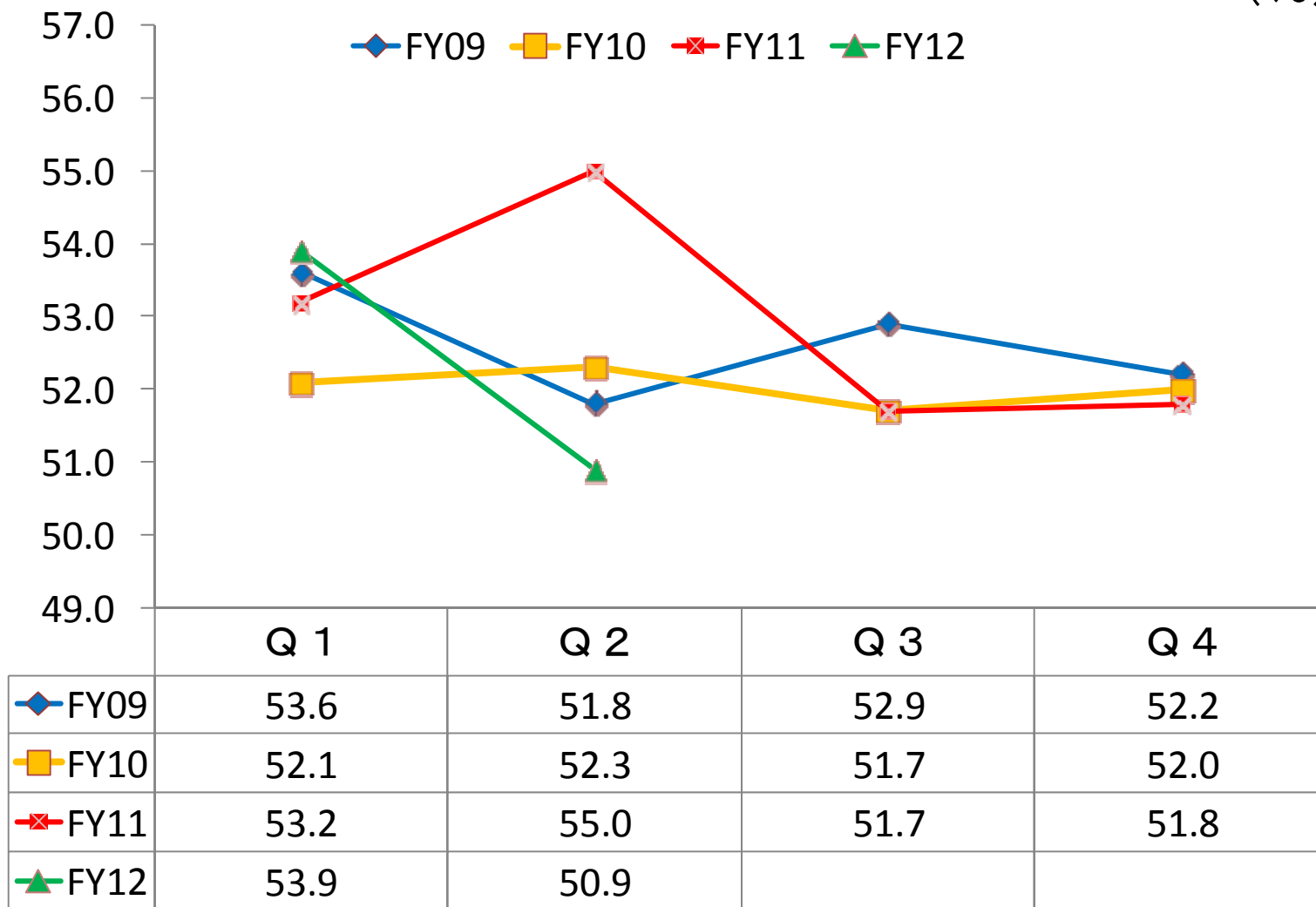
営業利益率



(各四半期の3ヶ月単位)

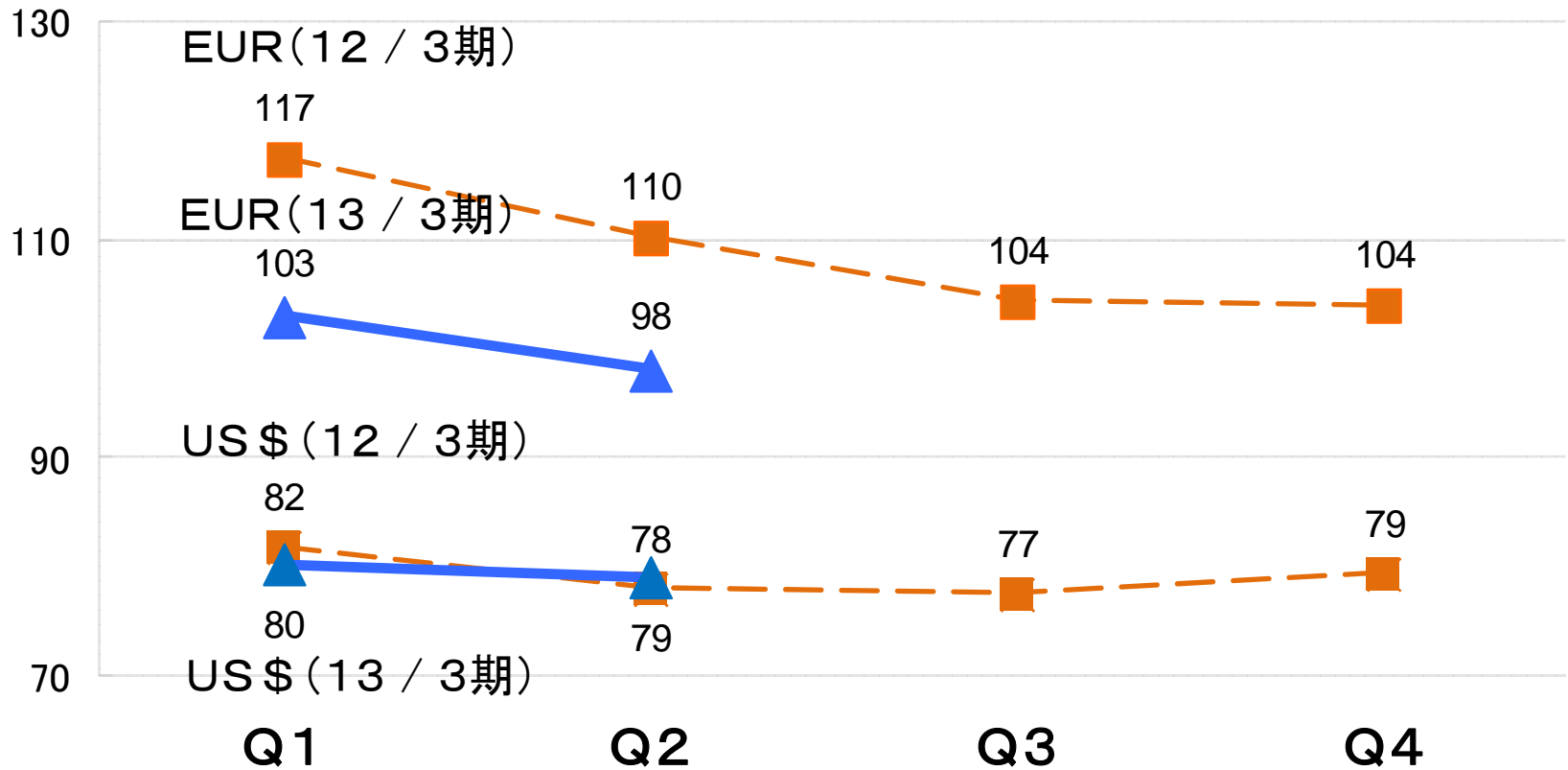
# 粗利益率の動き

(%)



(各四半期の3ヶ月単位)

# 四半期平均為替レートの推移



(各四半期ごとの期中平均レート)

# おことわり

---

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。